

令和5年度 学校評価報告書

学校名	三田市立狭間中学校
-----	-----------

1 学校教育目標

人間尊重を基盤とし、確かな学力と豊かな心でたくましく生き抜く生徒の育成

2 今年度の学校重点目標

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 生徒の人権が尊重される学校づくり | 2. 生徒理解に基づく生徒支援の充実 |
| 3. 学力向上 | 4. 教職員の実践的指導力の向上 |
| 5. 働きやすい職場環境の整備 | 6. 開かれた学校づくり |

3 総合的な自己評価

生徒はまじめに学習に取り組み、日々頑張っている。「学校評価アンケート」では、教育活動の満足度を問う項目で、肯定的評価が生徒で 88.4%、保護者で 84.9%という結果となり、概ね肯定的な評価がなされたと捉えている。しかしながら、項目ごとには課題があり、生徒の安心感や保護者の期待に少しでも応えられるよう取り組む必要がある。そこで次年度はより一層、全教職員で生徒理解に努め、生徒が安心して自ら学びを進めていけるよう教育環境の整備と丁寧な対応を心がけていく。

4 総合的な学校関係者評価

学校生活における生徒たちの活動は、より良い方向に向かっている。小学校への出前授業、能登半島地震の募金活動、スマホサミットへの参加などは生徒会が中心となって取り組み、生徒自らが行動して頑張っている様子がうかがえる。今後は、多くの生徒に自発的な学習や行動ができるようになることを望む。そのためにも、教職員の授業力や指導力の更なる向上を願う。また、オープンスクールでは、生徒の活動をより分かりやすく参観していただくために、入室等の案内掲示を丁寧に行っておく必要がある。

5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	・年間の標準授業時数を確保する	・計画的に時間割を編成して標準授業時数を確保し、教育活動の充実を努めた。 ・学校行事は有意義なものとなるように進めていった。	・教育活動や学校行事に関しては、その目的を明確に設定し、常に見直しや精選を行いながら計画的に実施していく。	・自主学习、自由学習の時間を確保して、自分から学ぶ意識を持たせることが大切。 ・ものづくり等の学習経験が少なく感じるので、技術的なことが学べる機会を増やしてほしい。
	・教育活動を見直し、精選と充実を図る			
	・適切で充実した学校行事を実施する			
学習指導	・わかる授業で「確かな学力」を向上させる	・ドリルパークを活用し、基礎学力の定着を図った。 ・人間尊重を基盤に学校生活全般で指導している。命やキャリア教育の学習も実施。	・「目標と指導と評価」が一体化した授業改善を行う。 ・わかる授業だけでなく、自ら考え判断し、自発的に学習できるような指導を進めていく。	・自分で考えて、自分で発言・表現することができるように願う。但し、孤立やいじめにつながらないように雰囲気作りには留意。 ・ICTの活用はプログラムを組むことから始めると大変なので、デジタル教材等を効率よく使用することが重要。
	・ICTの活用など指導方法を工夫し、基礎学力の定着を図る			
	・命や人権を大切にすることを育てる			
生徒指導	・規律正しく、落ち着いた生活を確保する	・落ち着いた生活環境が維持できている。 ・「いじめアンケート」や教育相談等での情報を共有し、早期発見・早期対応に努めた。 ・生徒への丁寧な声掛けや寄り添いに努めている。	・生徒が求める規律正しさや落ち着きを丁寧に聞き取り、過ごしやすい生活環境を整える。 ・法に基づいた対応で、「いじめ見逃しゼロ」の意識を徹底する。 ・ハイパー QU を実施し、より丁寧な生徒理解や対応に生かしていく。	・個々の生徒の特性に配慮しながら、声掛け等の言動にも気を付け、丁寧に寄り添いながら対応していくことが大事。 ・生徒会が中心となって、校則やスマホのルールの見直しを考えることは有益。生徒の意見を生かした新しい通学かばんは、機能的なものとなっている。
	・いじめや暴力を許さない学校文化をつくる			
	・教育相談を充実させ、共感的生徒理解に基づき支援する			
	・個々の生徒が認められ活躍できる学級・学年活動を行う			
安全・保健管理	・安全で安心な生活環境を整備する	・毎月1回安全点検を実施。 ・情報モラル教室等を実施し、生徒・保護者に啓発した。	・社会変化に対応した情報モラルや安全教育等に関する取組を、保護者や地域とも連携し一層推進していく。	・情報モラルや命の大切さ、性の多様性について等を意識し、考えていくことが大切。
	・危険回避の安全教育と安全指導に努める			
保護者や地域との連携	・学校や生徒の様子をわかりやすく伝える	・毎月1回学校便りを発行。 ・オープンスクール、体育大会、文化祭等に保護者多数来校。	・保護者や地域のボランティアを今後も必要に応じてお願いする。 ・授業参観等で頑張っている生徒の様子を見ていただく。	・PTA活動の見直しを行い、保護者と学校との関係性を発展的に捉え、「できるときに、できることを、できるだけ」の思いで連携していくことに理解。
	・学校行事などで、学校を開放する機会を設ける			
研究・研修	・研究テーマを設け、実践的指導力の向上に努める	・ICTの効果的活用を推進。 ・教師による授業の相互参観の機会が少なかった。	・「ほめてのばす小中一貫教育のあり方に関する研究」を進めていく。 ・教師の授業交流や研修の機会を設け、教師の授業力向上に努める。	・校区内の小中で、小中一貫教育における目指す子ども像を共有し、「確かな学力」の連携した育成を望む。
職場環境の整備	・定時退勤日やノ部活デーを徹底し、勤務時間適正化を図る	・ノ部活デーの完全実施と定時退勤日の実施率向上等、業務改善に努めている。	・業務改善に向けた教職員の意識改革を図る。 ・コミュニケーションを大切に、ハラスメントを許さない職場の雰囲気作りに努める。	・教職員の業務改善を一層進めていくことは大事。 ・次年度からの時程表の見直し、最終下校17:30、ノ部活デー平日2日を確認。
	・ハラスメントのない働きやすい職場づくりに努める			